

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リニエブラツクずは		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日 ～ 2025年 4月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日 ～ 2025年 4月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士（ST）や作業療法士（OT）などの専門職が直接関わることで、専門的な視点からアセスメントを実施し、より個別性の高い支援が可能を行っています。	利用児様が意欲的に療育に取り組めるよう、遊びの要素を取り入れたり、成功体験を積み重ねられる環境を整えています。	療育後のフィードバックにて、家庭でも支援が継続できるような情報共有を行うことで、療育の効果を高めていきたいです。
2	各児童の発達レベルに合わせた関わり方や課題設定をすることで、無理なく成長を促し、達成感を得られる支援を実施しています。	スタッフ同士が定期的に事例検討を行い、支援内容を振り返ることで、より良いアプローチ方法を見出し、療育の質を高めています。	地域社会との連携強化 学校や福祉機関と協力し、療育後の生活支援がスムーズに行えるような包括的なサポート体制を構築していきたいです。
3	身体・認知・言語・社会・日常生活の5領域をバランスよく支援することで、多方面から子どもの発達をサポートしています。	利用児様の状況に合わせて定期的に支援計画を見直し、目標達成に向けた最適なプログラムを提供できるよう工夫しています。	支援のさらなる個別化と専門性の向上 より細やかな個別支援を目指し、新たなアセスメント方法やプログラムの開発を行い、専門職の研修機会を増やすことで支援の質を向上させていきたいです。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の外観や表示が明確ではないため、初めて訪れる人にとって、どのような支援を行う場所なのか直感的に理解しづらいと考えています。	児童の成長や課題の把握は行っているものの、標準化された評価指標が少なく、客観的なデータに基づく支援計画の策定が難しい場面があります。	看板や案内板の設置、事業所のパンフレットの内容を充実させて、事業所の役割や支援内容が視覚的に伝わる工夫をしたいです。
2	人員不足の影響で個別支援が中心となり、グループでの療育の機会が限られているため、社会性の発達を促す支援が十分ではない可能性がある。	支援内容や児童の成長過程について、保護者への伝達が十分に行われておらず、家庭での支援が適切に継続されないことがあります。	研修や勉強会を定期的に行い、スタッフの専門性を高めるとともに、継続的な採用活動を行うことで、療育を充実させる体制を強化していきたいです。
3			